

補助金対象事業報告書(平成25年度)

団体名	NPO法人TenVまちづくりネットワーク機構 (平成 24 年 12 月設立)
事業名	防災まちづくり市民会議～みんなの防災市民組織を考える～
事業(該当区分に)	1.活動促進事業 2.協働事業 3.若者活動事業 4.地域活動チャレンジ事業

1 事業の目的

目的	区民の関心が高い災害に強いまちづくりを進めるために、「自分たちのいのちは自分たちで守る」(自助)が基本であるが、地域社会で暮らす私たちは、地域の助け合い(共助)が大切である。その中心を担う防災市民組織(防災会)の円滑な運営のために、意見交換を通して課題の検討・交流を目的にしている。
----	---

2 事業の実施状況

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	実施対象者・対象人数(延べ人数) 防災市民組織(防災会)関係者(延べ50人)	防災市民組織関係者(46名)、企業(4名)、一般(7名)、行政(7名)、NPO関係者(11名)、計75名の参加者でした。 会場の定員が80名で、ほぼ満員でした。
	実施内容 「事例」東日本大震災における自主防災組織の発表とその課題、悩みをどう解決するかの意見交換。	計画通り実施した。実際の自主防災組織の役割、行動など何を、どうすればいいのかを東日本大震災を例にあげたお話で、好評であった。さらに、意見交換でも取り上げ参加者の悩みに応えた。
	実施場所 杉並区内の集会施設を予定(2会場) ・井草地域区民センター ・セッション杉並	2会場の予定であったが1会場で75名で実施。会場は井草地域区民センター第1・2集会室で行った。平日にもかかわらず、会場いっぱいになり関心の高さが伺えた。
	実施回数・スケジュール 全2回 第1回:10月下旬～11月上旬 第2回:2月上旬～中旬	2月17日(月)に実施した。1会場にしたのは、予算や準備の関係からであったが、会場の選定、日時等一般の方が参加しやすい環境づくり、配慮必要であると感じた。
	実施体制(従事した人員数・設備等) ・当法人のメンバーで講師、運営を担当 ・一部外部講師、協力スタッフを依頼(11名)	人数は当法人のメンバー及びボランティアスタッフの11名で実施した。

自 己 評 価	事業は当初の予定どおり実施できましたか。
	事業は当初2か所で実施予定であったが、防災会の参加を中心に考えていたので、その日程の都合により、1か所2月1日(土)に決め、広報のチラシ等準備を進めていた。しかし都知事選の影響で日程を変更。平日に実施せざるを得なかった以外は、会議の内容については予定通り実施できた。
	[自己評価]
	<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった

3 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。		
		区内の防災会164団体の聞き取り調査をした。その結果、会長、役員の高齢化、長期化、固定化、担い手不足、加入率の減少など運営上の課題や悩みをかかえている団体が多かった。	実態を把握してからの市民会議でしたので、組織・運営上の悩みは、井草地区でも共通であり応えることができた。新たな悩みとして、備蓄品の置き場所、無線の不備などが上がっていた。今後、いろんな課題を研究し応えて行く。
		<input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> 概ねあった <input type="checkbox"/> あまりなかった <input type="checkbox"/> ほとんどなかった	
	地域の特性を活かした活動になりましたか。新たな問題提起ができましたか。		
		「失われかけてきた隣近所のおつきあい」「自分さえよければという相互扶助の意識の希薄」など個人の力だけでは解決できない問題がある。防災会が中心となり、地域防災力を高めることになるが、地域コミュニティが形成されているかが問われている。	東日本大震災の教訓から「行政に頼らない機動力のある組織」「顔の見える範囲ごとの小さな組織単位」「普段はイベントを楽しみ、コミュニケーションづくり」が大事であるとの提案ができた。日頃の防災に対する問題意識が高まり、今後取り組む手がかりができたと思う。
	【自己評価】		
	<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
	この防災まちづくり市民会議は、いざという時のために地域で助け合う精神を日頃から養うことにある。そのために、防災会の課題や悩みを改善・解消しておくことによって機能することが期待できる。	「加入率の低下と担い手確保」「高齢化と固定化」という2つのテーマについて意見交換したが、その解決方法として「親子で行事に参加」など、参考になったという声が多かった。さらに、自主防災組織と他の団体との連携が必要との意見が出された。井草地区のみならず区内の他の地区でも開催し、区民の防災意識を高めてもらいたいとの声がある。この市民会議の広がりの可能性を強く感じた。	
	【自己評価】		
	<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
	この事業の目的は 防災会の活性化方策と 防災会とのNPOや他団体との連携であった。 は今後あらゆる機会を通じて、ともに考え、実行していく。 はまだまだ相互の理解不足、距離感を感じる。今回一つの方法として冊子「Q & A防災市民組織の不安・悩み・課題にこたえる」「協働まちづくりの基本」を配布し、普及に努めた。参加者はもちろんのこと参加できなかった方々への情報発信でもあった。家庭・団体・職場での話題や参加者のフェイスブックでの紹介などを通して広まったと思う。		
	【自己評価】		
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> 広がらなかった		

4 事業の公開と「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	「防災まちづくり市民会議」のチラシに「杉並NPO支援基金」のマークを入れ、7つの地域区民センター、集会所（四宮、八成、本天沼）にチラシを置いて広報した。当日会場で参加者へ案内・呼びかけをした。又日頃の活動の中で、基金の紹介を行った。
-------	--

5 今後の課題と活動について

今後の課題と活動	<ul style="list-style-type: none"> ・日程の変更で当初もくろんでいた若い人の参加が全くなかった。日程変更が不測のこととはいえ、今後、30～40代が参加しやすい環境づくりに努めることが課題である。 ・事業の展開の目的は最終的に「防災コミュニティ」の形成にある。ニーズを把握し、課題の解決をめざす方向性は成果があったと思うので、この活動を継続し、NPO、企業などの他団体との連携を新たなテーマに加え実施して行く予定である。
----------	--

6 活動状況について

7 収支決算

事業費	234,467	補助金額	200,000
-----	---------	------	---------

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	82,000	5,967	団体負担金 5,967円
	参加費・資料代等	25,000	28,500	参加費・資料代@500円×57名=28,500円
	その他の収入			
	NPO支援基金助成	300,000	200,000	
	計	407,000	234,467	

支出	費目	予算額	決算額	決算額内訳
	報償費	120,000	60,000	講師謝礼@60,000円×1名=60,000円
	旅費	84,000	28,280	講師交通費(盛岡～東京、往復、新幹線) @28,280×1名=28,280円
	備品費・消耗品費	89,000	67,527	・チラシ印刷26,000円 ・資料用、用紙インク代22,832円 ・ボールペン1,100円 ・名札ケース2,360円 ・封筒(200枚)13,755円 ・紙袋1,480円
	役務費	30,000	9,750	搬送費1,070円 案内・会議要旨郵送費8,680円
	使用料・賃借料	16,000	4,910	会場使用料(中瀬自治会名義) 4,910円
	その他の経費	68,000	64,000	会議要旨作成(反訳、印刷、製本) 55,000円 ボランティアスタッフ代@2,000円×3名=6,000円 交通費@1,000円×3名=3,000円
	計	407,000	234,467	